

高校生を対象に行ったオーラル・コミュニケーションAの授業覚書

大 沢 俊 成*

Toshinari OSAWA

A Note on the Teaching of Oral Communication A to Senior High School Students

〔キーワード〕 学習者の語彙知識／文法知識、知識と言語活動との落差、聞き取り方の指導、比較授業

この論文では、筆者は、高校生を対象に、オーラル・コミュニケーションAの言語活動の授業を行った結果、生徒たちの語彙や文法の知識と言語活動との間にどんな落差があったかを報告している。

また、その落差を狭めるために、辞書や文法書が記述している知識と整合性があり、かつ日常的にも経験している知識を利用して、有意味な聞き取り (listening comprehension) を援助した授業例を報告している。

1. オーラル・コミュニケーションAとは

文部省は、平成6年度から完全実施する高等学校の新学習指導要領(外国語)の中に、「外国語を理解し、表現する能力を養い、外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる」という目標を謳い、その目標を達成するために、オーラル・コミュニケーションA(日常会話)、オーラル・コミュニケーションB(聴解)、オーラル・コミュニケーションC(討論)を設けた。

オーラル・コミュニケーションAとは、新学習指導要領によると、「ア)自然な口調で話なされたり、読まれた内容を聞き取ること。イ)平易な表現で自分の考えなどを相手に話すこと。ウ)身近な事柄について場面や目的にふさわしい表現で話し合うこと。」を目標とした言語活動のことである。

読解指導に力を入れていた高等学校の英語教師たちは、新学習指導要領の公示を受けて以来、オーラル・コミュニケーションのための教材開発をしながら、従来の教材観の転換をしようとして努力している。また、教材開発のかたわら、多くの高等学校では、平成6年にむけて、オーラル・コミュニケーションの言語活動の授業も試行している。

2. 授業記録：導入と言語活動例と比較実験授業の結果

私は、1992年5月15日（金）に盛岡市のN高等学校普通科で、1年生を対象に、オーラル・コミュニケーションA（進行形の「言語活動」）の比較実験授業をした。

T. 今日は、皆さんが比較的なじんでいる文を使って英語を使う勉強をしたいと思います。

T. We are waiting for Ken. (板書) この文の意味が分かりますか。

S. 【すかさず】それ、進行形でしょう。私たちは、ケンを待っているところです。

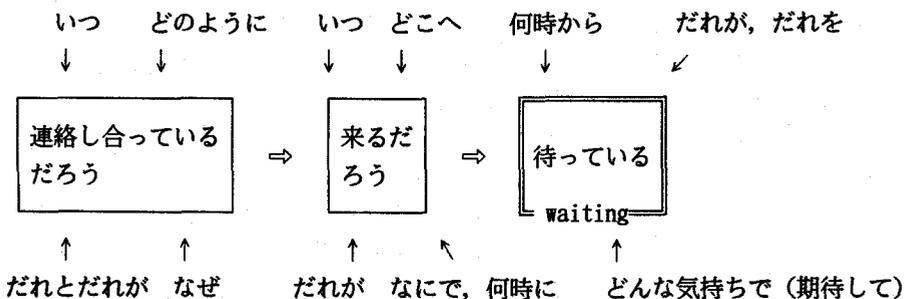
【互いに、進行形って言うんだ、という声と、なんでこんなことが問われるのかという空気が伝わってくる。高等学校に入学して、1か月余りたった生徒たちの中に、彼らが、中学校3年間、英語の授業を通して、どんな知識を身につけたかを容易に想像されてくれる反応であった。彼らは、学校文法レベルの表面的な知識、be+~ing=進行形のような覚え方をして、十分、分かっているという様子だった。】

T. そうですね。では、We are waiting for Ken. という文を話した人は、どのような出来事あるいは場面を頭に描いて、ケンを待っていると思いますか。

【みんなきょんととして、何が問われているか分からない様子で、沈黙したままであった。生徒たちが知っていた進行形について知識は、場面の中の出来事とはまったく結びついていなかったのであろう。これを言語知識と言語活動との間の落差と言えるのではないだろうか。】

T. 文を聞いたらいつでも、日常経験している出来事を頭の中に描きながら、想像を働かせて、文が伝えようとしている意味を考えましょう。

たとえば、waitingと聞くと、私たちは、日常次のようなことを経験的に想像できます。【板書によって、waitingという出来事を展開して見せた。】



T. 【板書後、私は、出来事の想像の仕方を説明した。】バス停留場で、We are waiting for Ken. と言われたとき、私は、この人達は、もしかすると、前もって電話か何かで連絡し合って、ケンが、〇〇時に、バスで来ることにしているので、〇〇時から期待して We are waiting for Ken (until he comes/arrives). あるいは We are waiting for Ken (to comes/arrive). と言ったのだと想像しました。

【と言ったら、何人の生徒から「ハアー」という息がもれました。少なくとも、なあんだ、という感じの「ハアー」ではなかった。だから、分かったのだと直感した。】

T. では、ある外国人が、私に、I live in Morioka,ではなく、I am living in Morioka.

と言いました。私は、どんな想像をして聞いたと思いますか。【しばらく沈黙が続く。】

【4～5人の生徒に言わせてみる。】

S¹. そんなら, 来年までとか。【livingの分かり方利用し始める。】

S². いつか盛岡へ来て, あと1～2年いるとか・・・

T. そうです!では, My bike is working. と言われたら, どんな想像をしますか。

S. working は, どういう意味ですか。【今まで, 人が働くことしか教わっていないから, 物が主語となったとたんに, 今までとは様子が違う文だと思ったらしい。】

T. 「働く」と言う意味とか, 「目的に合った働きをする」と言う意味があります。

S¹. では, 私の自転車は, 今働いている, とか。【workingの分かり方を利用し始める。】

T. 今のところ【と誘い水を差すと】

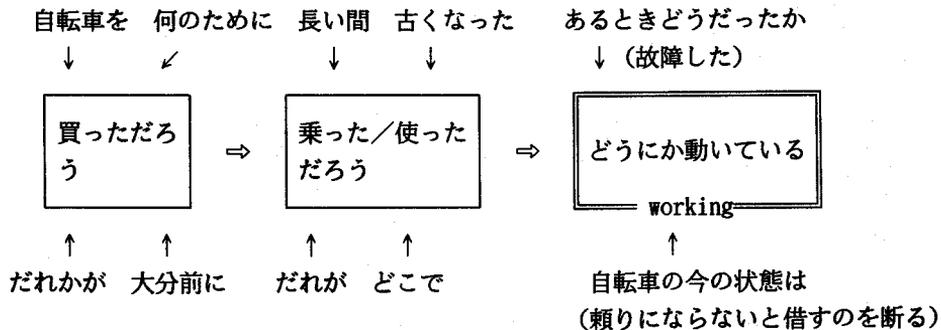
S². 動いている。・・・今のところ動いている, とか。

T. すると, この文は, 何を伝えたいのでしょうか, もっと, 想像してみてください。どんな自転車かな。

S³. 時々故障をする, とか。【workingの分かり方を良く利用している。】

S⁴. 余り良くない自転車だ, とか。【みんな楽しそうについてきた感じである。】

T. そう, そう, この自転車は, もしかすると, 大分前に買って, 長い間乗ったので, 時々故障することもあったが, 今のところ動いているとかね。また, 余り頼りにならないですよと, 借すのを断るときにも使うことができます。【あらためて, 板書して見せる。】



— (中略) イメージによる分かり方の練習は, 3で, 数例述べている。 —

以上のような流れの導入後, 班の生徒一人一人に, 次のようなカードを渡し, 生徒たちに進行形の言語活動(ロール・プレイ)をさせながら, 進行形のいろいろな言語機能を体験させた。また, 言語活動の間には, どれだけ, 言語機能(意味)が分かっているかを知るために, 全員にカードの右の欄に☑印の付いた分の意味を, 『～のような感じのことを伝えたいのだろう』と書いてもらった。【()内の言葉は, 解答例のキーワード】一方, 別のクラスの授業では, 以上のような日常的に経験している知識を利用した導入を省いて, 直接, 進行形の言語活動をさせ, どれだけ有意義な聞き取りができるかをカードに書いてもらった。そして, 日常的に経験している知識を導入したクラスの授業とそうでないクラスとの間の言語機能の分かり具合を比較した。

その言語活動とは、以下の活動であった。【なお、言語活動は、班ごとに、教室の前に出てやってもらった。活動していない班の生徒たちは、言語機能を『~のような意味だとか、~のような感じのことを伝えたいのだと思う』と記入欄に書き込んだ。】

言語活動 (ロール・プレイ)

1班 (ダイニング・ルームで)

(記入欄)

<p>Mary: Can you make the tea, John ? John: Yes, of course I can, Mary. Is there any water in the kettle ? Mary: Yes, there is. John: Where is the tea, Mary ? Mary: It's over there, behind the tea pot. John: Where are the teacups ? Mary: There are some in the cupboard. Hurry up, John! THE KETTLE IS BOILING. ☑(警告)</p>	<p>*言語機能 (警告, 説明, 断り) の把握についての比較授業の結果</p> <p style="text-align: center;"> ↙ ↓ 導入なし 導入をして に言語活 言語活動に 動に入っ 入ったクラ たクラス ス </p> <p style="text-align: right;"> 11人 21人 38人中 38人中 </p>
--	---

2班 (ホテルのフロントで)

<p>Manager: Who's that over there ? Receptionist: Which man ? Manager: HE IS WEARING A BROWN SUIT AND A HAT. ☑(説明) AND HE IS CARRYING A SUITCASE. Receptionist: I'm sorry. I don't know.</p>	<p style="text-align: right;"> 13 16 38 38 </p>
--	--

3班 (夫から妻への電話)

<p>Husband: I'm sorry, darling. I'll be late tonight. Wife: Where are you ? Husband: I'm in my office. I'M WORKING. ☑(説明, 弁解) But I'll be home in two hours. Wife: Will you be late tomorrow ? Husband: No, I won't be. Wife: Good! And the next day we'll be on holiday.</p>	<p style="text-align: right;"> 7 19 38 38 </p>
---	---

班 (職場の同僚について)

John: WHAT'S ALLAN DOING TODAY ?	☐(心配)		
Bob: HE IS HAVING A REST.	☐ 説明)	7	24
John: Oh, why ?		38	38
Bob: He didn't feel well yesterday. He had a bad cold.			
John: Will he all right tomorrow ?			
Bob: He seemed all right this morning. He will be much better the day after tomorrow.			

5班 (衣料品売り場で)

Man: They are just right fou you. And they are a real bargain.			
Lucy: I'M JUST LOOKING AT THINGS. I'M WAITING FOR MY DAUGHTER. SHE IS TRYING ON SOME JEANS.	☐(断り) ☐(断りの理由の説明)	15	32
Man: Why don't you buy some for yourself ?		38	38
Lucy: I couldn't wear that of pants. How much do they cost, anyway ?			
Man: 39 dollars. They are a real bargain.			
Lucy: Well, I'll try them on then.			

6班 (ケンがジョンから自転車を借りる)

Ken: I want to go out to get some evelopes. Can I use your bike ?			
John: Sorry. MY BIKE IS NOT WORKING. Please use my brother's.	☐(断り)	5	33
Ken: Thank you. I'll be right back.		38	38

3. 英語の授業の中での学びの再検討

筆者は、これまで、外国語学習者というのは、外国語を学んでいるというだけで、異常な聞き取り方、異常な読み取り方をしてることに気づいていた。そして、学習者にどのような学び方をさせてあげたら、言葉が機能する世界を心に描いて、少しでも、正常に近い仕方で、聞いたり、読んだりできるようになるかについて考えてきた。

異常な聞き取り方とは、前述の進行形の言語活動の授業の導入段階でも観察できたように、『T. We are waiting for Ken. の意味がわかりますか。』『S. それ、進行形で

しょう。』という反応に代表されるような聞き取り方を指す。生徒たちは、今度試みた授業の導入で、日常生活の中で形成した経験的な知識の利用の仕方を教えられただけで、明らかに、文レベルにとどまらず、談話理解のレベルにおいても、言葉を有意味に把握し、正常な聞き手に近い分かり方をしようとする傾性ができていることが分かった。

「もしも～なら、～するにちがいない」のような、一見冗漫に感じられるような「出来事をイメージする仕方」には、次のような3つの言葉の機能が含まれている。

・言葉 (be+～ingのような形式) は、話し手や聞き手が日常経験している出来事に構造を与え、話し手や聞き手のものの見方や考え方を規定する手段であること。

・言葉は、聞き手と話し手という役割を担う人のさまざまな願いや要求を満たすために用いられること。

・言葉は、さまざまな場面の中で遂行させる一連の談話の諸特徴と結びついて機能を果たすものであること。

以上のような機能を持った「出来事をイメージする仕方」は、言葉 (英語) の使い方を活性化させる手段となることが分かった。例：

□もしも、ジョンが、ボブを待って (waiting) いたならば、ジョンとボブは、前もって、電話か何かで、いつ、何時に、何に乗って、どこで落ち合うかを連絡し合っていただろう、そして、ジョンは、間もなく来るボブを、バス停留所で、期待をして待っていたにちがいない。

□もしも、メアリーが、ジョンに、やかんの湯が今沸騰している (boiling) と言えば、メアリーが、はじめ、湯が沸騰していることに気づき、ジョンに知らせたのだろう。湯は、何かを温めるためか、あるいは、煮るために、台所かどこかで、沸かしていたのだろう。その湯が、吹きこぼれそうになっているか、吹きこぼれているのを、ジョンは、メアリーから知らされ、ジョンは、火元を止めただろう。

□もしも、ボブが、ジョンに、アランは、今日、仕事を一時休んでいる (having a rest) と言ったら、それを聞いたジョンは、アランのことを、病気かも知れない、あるいは、疲労しているかも知れないと心配するだろう。

□もしも、トムが、だれかに、〇〇に生活している (living) と言ったら、聞き手は、以前トムは、どこに住んでいたのだろう、今住んでいるところで、いつまで、何をしているのだろう。

今、英語教師たちが教室で使用している市販の問題集や教師が授業中に提供するワークシート (問題集) の教材は、余りコミュニケーションを意識しない言葉の表面的な知識だけではないだろうか。この際、あらためて、コミュニケーションとはどのような機能を持っているかを吟味しながら、市販の問題集や自作のワークシートを検討してみることは授業の改善に役立つと思う。

見直しに当たっては、文法書や辞書の知識と整合性をもっていると思われる日常的な知識を、前述したような「出来事をイメージする仕方」を積極的に活用して、生徒の伝達意欲をそそるような言語教材を作り、言葉学習らしい授業を進めてほしいと願っている。

なお、前述のような「出来事をイメージする仕方」を英語教育に応用する根拠となった基礎研究は、筆者が、R. C. SchankやW. Kintschらの知見に基づいて研究した『英語の動詞

の意味の連想的推論の観察』(1977, 1978, 1980), 『動詞の意味の記憶に及ぼす形容詞の影響』(1981)の中で述べてある。また, 筆者と類似の研究(R. C. Schankらの知見に基づいた研究)が, 『英文読解のストラテジー』(天満美智子, 1989, 大修館), 『学習者中心の英語読解指導』(津田塾大学言語文化研究所, 1992, 大修館)の中で, 取り上げられるようになったことは, 今後の指導法の開発にとって有益だと期待している。